A. Natsu-no-yo wa, fusuka to sureba, hototogisu ;
naku hitokoe ni, akuru shinonome.

B. Natsu-no-yo wo, nenu ni akenu to iiokishi ;
hito wa mono oya, omowa zariken.

C. Itsuwari to, omoi nagara mo, imasara ni ;
ta-ga makoto oka, ware wa tanoman.

女學雜誌第貳拾七號目次

●社説　女子と小説
●新報　十三則
●叢話　エモルソン氏唱歌聲論抄譯○束髮圖解第三○女學隨筆をみなへし第二○日本古代女流の風俗第八○女學時論の大概○日本之意匠及情交
●佳傳　梅香女史の傳第十○アウガステンの母モニカの傳
●寄書　詩歌十首
●附錄　女學校集報（二）
●廣告

甲。夏の夜ハふすかとすれハほとゝきす鳴一聲にあくるしのゝめ

乙。なつのよをねぬに明ぬといひ置し人ハものをや思はさりけん

丙。僞と思ひながらもいまさらにたがまことをか我はたのまん

●珊瑚の玉（六）

●泉式部曰く皆人の我をあひするときハ其惡かるとも見ず知ず我よろしときハ善事も知らず惡者のいよ〳〵わるかるなりあひせざるも其惡と知りにくめども其善を知るものハ人なりことに女の身にハ高き賤き心なくて色を見て枝をたゞむの言葉あり常に直き心をもて貞心なるべきこゝろ女のほいなるべし

●紀の有常の女房貞子曰く男子ならぬ身のふるまひハ思ひ千々にあるとも色外にあはいださぬを女とや云べきたゞにや女ハ口さがなく心くねりて清きをのこのみにんとそむつかしきものならぜや

●花月草紙の著者曰く夫婦別ありとは新枕のあけのあさをき出でたらんときの心持をいふと人の言ひし實に然るべし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌第貳拾七號（明治十九年六月廿五日）

●社說

○女子と小說（上）

世に美術と稱ふるものあり專ら人の心目を娛まするあいだに自ら勸善懲惡の趣を示し世人を高尙の道に導きて此世と黃金世界に近づかしめんとはするなり而して美術には數多の類ありて今一々茲に擧ぐるは反つて煩はしきほどなれども先づ其主なるを云へば人の目を娛しませて心を高くさするに彫刻と繪畫とあり共に世のなかにありと云ふ最と美くしきものを形ある形に現はすものなり又人の耳を娛ませ人の心を動かすに音樂と詩歌とあり共に惡人をもひるがへし鬼神をもとりひしぐの力あるものなり又世のなかの人情風俗とありのまゝに現はしてその中におのづからの勸懲ある趣を示せば卽ち演劇と小說となり此等は皆な美術中の主位を占るものにて何れも婦人女子に大なる關係あれば吾人はつぎ〳〵に思ふところを述べてその改良をも望み亦た讀者の注意をも仰がんとすれば今は先づ其一つたる小說のことにつき少しく考ふるまゝを論述すべし

西洋にては小說にも數多の種類ありと定めておの〳〵その專らとする所を主意とし書つゞるとなれども我國には近比までかゝる判然したる區別あるよしを知る者すらあらざりき然れど今まその趣を實例によりて示さんとせば曲亭馬琴の著作は概ね勸懲を主意としてつゞりたるものなりそのうち八犬傳巡島記の如きは八行三德を人にかたどりて世人の摸範をつくり夢想兵衞物語の如きは世のいつはりをそしりて世人の心得をさましたるなど一は勸ることを專らとし一は懲らすことを專らとしたる者なり又た爲永春水の著作は概ね人情を主意としてつゞりたるものなり大抵野卑のものとは云へど或は梅曆に藝娼妓の心意氣をあらはし八幡鐘に娘おぼこの心衷を示し專ら人情のありのまゝをうつせり式部が源氏物語にその比のありさまをうつし種彥が田舍源氏に幕府の殿中をそのまゝにしたるなどいづれも此れと類を同ふするものにて之を人情本又は世のうつし文とは云ふなり然れどいづれも勸善懲惡を土臺としたゞ之を直接にすると間接にするとの相違によりて斯る二色の種類とは生ずるとなり

此故に演劇を早學文の塲所と云ふ如く小說もまた容易に人を教ゆるの書物なりそも〳〵此世のなかは千態万狀にて善人の艱難憂苦に死するもあり惡人の榮耀華樂に送るもありたゞその一端を見るときは人の道德とすゝむべき敎となる趣もあらざれどもよく其前後と終始とを見合せてつきとほしたる斷定をこゝろむ

るときハ短きハ二三年長きも五六十年のうちに勸懲賞罰の敎ハ判然として現れるゝとなり然るに演劇ハ之を一日のうちに示し小說ハ之を一二卷のあいだに現ハすとゆえ其効能稗益はなハだ多きこととなりされバとて從來の小說の如く著者が裁判官となり又ハ孔夫子をも氣取り春秋の外傳をつゞる如き心意氣にて小說のうちに褒貶賞罰の言葉をかゝぐるは反つて小說の体を失ひ美術の本旨にかなハず小說ハ他の美術の如く專ら世の中のありのまゝをうつし著者は人形をあやつるものゝ如く全く影をかくして小說中の舞臺に出でざると法とそ然るに世の中にハ前に申そ如く勸懲の法則自然に行ハるゝものゆえ此有樣とろのまゝに寫し得たらんものハ即ち其小說をして勸善懲惡の敎に効能あらしめたるものあるべし近頃小說の議論をなすものにして此理をすて專ら人情をのみ寫すと目的とし其土臺たる本意を覺悟せざるものあれバ序でとして玆に一言するも必竟小說ハ前述そるやうのものとして世に効能あるよしを示すの微意あるのみ

小說にかゝる効能あらんにハ之をさかむにそるとも亦た大切なり然るに美術ハ大凡そ太平ハ世ならでハ隆盛の運を得ざるものゆえ小說も亦た亂世反逆の代にハさかむとならぬものなりむりしあまたの物語を世に出せるときハ即ち藤原平家榮華ときハめて天平の太平なりしころあり德川氏時代に馬琴、京傳、三馬、一九、春水等の輩出したるも久しく其治平を諺にしたる文化文政の太平時世なりき此故に明に治る明治の御代となり東西のすみゞ率土ハ濱みな王化にうるほひたる數年前來ハ小說の運命にハかに世にハびこりて今日此頃の有樣とハなりしあとなり然るに經國美談、春鶯囀、書生氣質、經世偉勳、みな世上に喝采を博したる良著譯なれどもいづれも丈夫偉男子の志を立てゝ世に立身出世したる有樣を示すにあらざれバ學校書生の穴を探りたる懲戒の小說なり一として女子婦人によませたきとは思ハれあらぞ其うちにも佳人之奇遇と云へるにハ幽蘭、香蘭、巴兒倪なんど云へる烈女を出せど文章かたくして漢學者ならぞバ味ひ得がたし妹と脊かゞみに娘のありさまと出すやうなれども先づ男子の方を專らとしたる緣ぐみの敎あり閨秀美談と云へるもあり婦人地球週遊記と云へるもあれぞ之を非常なる佳作とも云ひがたかり一言すれバ今日の小說ハ男子のよむべきもの多く又讀むべしと思ふ小說ハいづれも男子を客と差てつゞりたるやうに思ハるゝなり此を當今の一欠点にハあらざるか

然るに女子は男子よりも多く小說と好むものなり其好むみと如此く切にして世に之が望をみたすべき良好の小說あるなし此に

於てり其の愛讀するものも梅暦、八幡鐘、辰巳の園、永代團子、の類にあらざれば此等を飜案して其粕に似せたる今日の續物語なり其のうちに記そるところの人物も色に迷ひ淫を專らとそる男子ならざれバ其ために身をひさぎ其ために自由となりてたゞ淫亂の道具となり果てたる婦人女子なり其男ハ金も力もなき色男ならざれば女のかせぎに依賴する卑屈の男子なり又其女ハ痴話と嫉妬とを情のあつきしるしとして男に仕送るを樂みとし三線の糸にかゝり憂き川竹に流るゝをもて最上の貞なりと心得るの儔なりかゝる動物を以てみち〳〵たる小説をよろこび味ハんにハ人の思を高尚にし人の心を勸懲すると云ふ小説ハ一つの効能もあらざして反つてこと〴〵く害あるものとなるべし今れ小説家ともつて自任するものハ深く此の有樣に慷慨すべき筈なり故に吾人ハ今まかゝる小説家の注意を乞ふと共ゐ小説の著作ハ女子の一藝として甚だ宜しきものなるを信じ今ま有力なる婦人諸子に對して大に望むところあらんとそるものなり

● 新報

○女學叢誌の束髪論　女學叢誌と云へるハ吾社と幷び立ちて女子の教育を專門とそるものなり平生の議論淺薄野鄙にして吾人の不快に感ずるもの多かれども大抵は之を不問に置たり然るに此頃發兌したるこの第二十六号に本を務むべしと云ふ一篇を掲げて暗に吾人の議論を駁するの氣色ありたれバ止を得ず今初て論鋒を接したゞ小兵を以て玆に對するものなり抑も彼記者ハ自ら言ふ束髪ハ贊成なりと然れども之を行ハんとするにハ家屋を西洋館にし煙出しをストーブに代へ和食を洋食に改め平常洋服を着ざれバ不相應しからざ故に衣食住の改良をなすべき程の實力ありてこそ初て束髪をも行ふべけれ故に余輩ハ束髪論と贊成すると同時にこの行ハれざるを憂ふと述べたり苟くも女子の教育を心掛け少かよても率先改良の任に當らんとするものハ如此き無氣力の精神を有し何事をか爲し得ん抑もすでに贊成すると云ふ贊成そるとは其の善なるを承知するものにあらずや既に善なるとを承知すると云ふか何んぞ精神を盡し熱情をつくして之を主張し少かよても其行ハるゝとに盡力せざる行そるゝと行ハれざるとは束髪なるものの自ら進退するの故にあらざ實に之を爲す者の氣象何如によるなり若しこれ衣食住を改良したるのちならざバ束髪をも爲しがたしと云ふ平記者は斷髪そるに先ちて既ゐ洋館に住み洋服を着し洋食を常にしたるか決して然らざるべし帽を戴くに洋服ならざバ不可なりと云ふか滔々たる日本

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の男子みな和服にして帽を戴くにあらずや女子なんぞ之を爲しがたからん現に橫濱女學校の生徒等はすでに多く之を用るにあらずや十數年前チョンマゲを惜しみて神洲の氣力之が爲に滅せんことを慷慨したるものも今は尚ほ記者の無氣力を憫れむべきなり束髮の事一小事に過ぎずと雖も大凡そ今や改良の氣運に乘じて驕虎の勢を發し大に日本の女風をあらためんと欲するものは一言と雖も甚だつゝしむ所あらざる可らず況んや記者の如く女子教育の任にあたるものに於てをや記者よろしく公平誠實の信情を以て日本の女事を憂ひて可なり若し然らんには吾人此より一良友を得たりと云ふべし

○共愛會　高輪臺町教會の婦人兩三名の發起にて共愛會と云ふを設け婦人は手業を以て慈善の仕事を爲さんとは目的なるに會員は既に三十名余となり追々盛大に赴かんとするよし十六日の基督敎新聞に見ゆ

○軍人の寡婦　に相當の扶助料を下附せらるゝは其夫が生命を犧牲にして國家に盡力せし功勞に酬ゆる御主意なるに此頃に至り同居人又は寄留止宿人は名義にて入夫となり寡婦の名目にて扶助料を利するものあるやにて其筋にては專ら取調中なりと十六日の日々新聞に見ゆ

○女子商業學校　高等師範學校附屬女子小學校の教師等發起にて今度東京女子商業學校といへるを設置せんと目下計畫中のよしと六月十六日の時事新報に見ゆ

○女子英學教授所　曾て舊開拓使女生徒となり大山伯夫人等と米國に留學したる吉益亮子は今度京橋區南鍋町に女子英學教授所を設けられたるよし

○高等女學校　へ入校するものは本月三十日までに願出づべしとなり

○海軍々醫夫人會　は去十七日芝の成醫會にて夜會を開き高木軍醫總監も出席ありて演說あり同會は今後毎月一回づゝ催す由にて毎會一人三十錢の積金をなし會員中病死又は災に罹りたるものあるときに送附する見込のよし(六月十六日時事新報)

○貴婦人交際會　米國公使館にては去九日貴婦人交際會を開かれ各大臣の夫人及び各國公使の夫人等來集あり主客打解けて歐米及び東洋の夫人の慣習禮式等を語られたり(六月十一日日々新聞)

○橫濱共立女學校　橫濱山手二百十二番の同校にて此度大試驗と卒業式とあれば參り會せよとの招待狀を得余は去る十六日朝より同校にゆき試驗の摸樣を観たるに第一級生卽ち此度卒業さ

る丶方々の聖書を暗誦さるゝ趣及基督教証據論の暗誦並びに第二級の方々も同じく聖書を暗誦さるゝ趣などたゞ感歎の外なく平生の勉強も見えて試驗する教師方の心もさぞと察せられぬ同校にハ西洋の方々の來學さるゝもの多く第一級にハ四人のうちに二人第二級には九人のうち三人の洋娘を見うけぬ其翌十七日にハ卒業式ある由なれバ之とも觀たく覺ゆ其夜ハ留りたれど翌日急に用事出來て歸京したるハ遺憾なりき但しきく所によれバ前の四人即ちケテ、エダ、阿部ハな、木脇ちの、の方々恙なく卒業し榮譽を得られガタラン氏の演説もありて余程の盛會なりし由

○私立岡山女學校 と岡山區西中山下に新設ありて佛國女教師二名、東京女子師範校卒業生二名、其他歐米の裁縫及外國語學並に日本裁縫等を教ゆる三名の教師ありて生徒も追々入校する由なりと同所番町の黒白山人と云ふ名前にて來報あり

○レビット夫人の禁酒演説 レビツト夫人ハ米國ボストン府の人にて世界婦人禁酒會の書記なり(年齢四十八)基督教新聞に云く此禁酒會ハ實に廣大なる會よして會員は英よも米にも佛にも普にも世界万國よもあるとにて其數既よ廿万人余ありと云ふ而て會員の中にハ當今米國の大統領たるクリーブランド氏の令妹あり又同國前大統領ヘース氏の夫人もあり殊に英國有名の政事家ジョンブライト氏の令妹ハ即ち此會長なれバ盛んなると推して知らるゝしぞ然るに此度同夫人が世界を周遊さるゝの主意も同會より撰バれ五ケ年を期して万國にゆき禁酒の事を遊説し會員を募り益す禁酒の主義を擴張せんとするにありとぞ斯て同夫人ハ過般米國を發しサンドウイツチ諸島に渡り其よりオーストラリヤに趣き到る處公衆を集めて禁酒の演説せられたるとなるがオーストラリヤのメルボン府にてハ聽衆四五千人も群集し非常に盛んなりしと云ふ○同夫人此頃我國に渡來あり過る十三日よハ中六番町の講義所にて演説あり小崎弘道君通辯せらる余も行て傍聽したるが同夫人の精神にみちて辨舌の爽かなる吾儕をして非常に感發せしめたり特に過る日奈良の大佛に詣で斯る偶像は日本人民の爲に益なし速にこの國民をして基督を信ぜるに至らせ玉へと祈禱ありたるよしを演べらるゝときは余ハ涙にむせびて其愛心の切なるを謝したり特に同夫人ハ其會の主義として酒を節せしめんとするにあらず一滴をも飲ませざらんとするにあり故に集會したる婦人方に對し姉等ハ其夫、其子、其父としで一滴の酒をも用ひしめざれとそゝめられたるときも一同また其の斷乎たる決言に服したり。同演説の大意は初に女子の演説ハ聖書に禁ぜる所ならざるを述べ次に聖書中に酒とあるに九

種の別あり飲むことを許されたるハ乾葡萄の搾り汁にて人を醉ハすべき酒にハあらざることを說き終に人を醉ハすべき酒は聖書に於て嚴禁したる趣をすゝめられたり○同時きく所によれバ英國にてハ十二年以前に酒を飲まざる基督敎の敎師たゞ十五人なりしも今ハ四千五百人あり此四年間英國にて新に禁酒したるもの百万人以上あり又北米合衆國の六ヶ州にてハ既に其國內に酒を賣買するを禁じたり又同國古來の大統領にて全く禁酒したるもの六人あり(クインシー、アダムス○ゼフナルソン○メヂソン○ガーフヒールド○ペース○リンコルン)とぞ

○米國の婦人　アメリカのサンフランシスコより通信に云ふ當國の婦人は御承知の通り自由の天地に生長し法律上幷に社交上共に男子と同一の權利を有し眞に身心共に自主自由にして其擧動の活潑精神の銳敏なる點ハ小生等が東洋製の眼鏡を以て視れバ所謂る生意氣過るの趣なきにあらざれども大体上より言ふときも實に男女同等の名義に恥ざる價値を有すること明かなり今實際に就て申さんに當國の小學、中學は大概婦人之れが敎員となり何れの小學校、中學校を見るも男子は只役員たるのみにして其他ハ皆な婦人なり加之ならず大學校と雖も往々婦人にしてプロフエッソルたるものあるを見聞せり思ふに通例普通の敎員ハ中學校を以て終るものなり然るに此邦普通の敎育ハ大概婦人の授くる所あるが故に當國五千万の人民ハ其母の胎內より生れ落て養育を受け敎育を受け一人前の人間となる迄は始終婦人の手に依賴するものなり言を換へてこれを申さバ智育体育共に婦人の權內に屬するものなりこれを我東洋婦人の單に不完全なる養育をなすものに比すれバ其差の天淵啻ならざることを知るならん右ハ只其一端を掲げたるに過ぎざれども其他万般の事に向て婦人が文明の幇助をなすこと甚だ著大なり彼宗敎を宣傳せんがため万里の波濤を超え氣候の寒熱、風俗の善惡を問ハず亞細亞、亞非利加の內地に跋涉する婦人幾許なるを知らざるを以ても其活潑無比なるを知るに足るべし以上に述る所とは事變れども婦人に關したる話故茲に附記せんに當地の婦人社會に於てハ日本風の扇子傘を使用する者頗る多く余が寺院に詣づる每に例の熊谷扇(日の丸ではなし)の如き巨大の扇子の而かも極めて粗造の品を眞面目にて用る者あるハ余等に隨分奇異の感想を起さしめたり實に好奇の心は洋の東西と面の黑白とを問ハず何れの所も同一と見ゆ又此頃東方より來りたる人の話を聞くに紐育及び詩格呉邊にてハ料理店の給仕等往々日本服を着して店に出て顧客の冷笑を惹くものありと云へり(六月四日大坂日報)

○京都看病婦學校設立の趣旨書（前号につゞく）

生徒就學の期限は凡て一ヶ年六ヶ月とし初一年間ハ論理的及び應用的の教授を受け又病院の室内に於て勤勞すると要し殘る數ヶ月間にハ女教師の指揮に從ひ實地經驗に從事せしめ殊に貧困なる病者の爲めに働かしむべし且つ又生徒を就學中其職務時間を除くの外ハ教師の近傍に設くるところの家塾に在ることを得べし而して又定期間修業せしものには必ず卒業証書を授與すべし

且つ生徒を凡て謹直篤實の婦人として清潔、整齊、忍耐、靜穩、快活、機敏、勉強なることを要し其學ぶところの要點ハ醫士の指令を精密に施行し病人を看護するに手練し同情相憐むの心術を盡して以て患者の身に代り其思ひ得ざる所を思ひ其爲し得ざる所を爲す等の事なれども固より一片の紙面に述ぶること能はず唯だ之れ看病の事たる特に基督を信ずる婦女子の爲めにハ眞に學ぶべきの業にして且つ高貴なる術と謂ふべきのみ

今夫れ同志社々員が此事業を發起せんと欲するに當り深く信ずるところのものハ即ち此の學校により直接の裨益を蒙むる我邦人ハ勿論我國に在留せらるゝ外友諸君に於ても皆必ず此學を賛成し玉ふとなりとす既に彼の米國にある我交友諸君ハ其れ他邦の人なるにも關はらず猶ほ且つ我等に必要ある教師を送り須用の機械を與へ加ふるに年々若干の保護金を寄附するの約を立て以て大に賛助の好意を表せられたり豈歎喜に堪へざらんや然れども是れ固より共同の趣意に出でたるものなれバ此學をして成就せしむるにハ即ち我儕に於ても亦た其土地を購求し其家屋を構造することを負擔するに在り而て今此土地を求め此家とを造らんと欲するに當り概ね二千圓の必要を見るなり嗚呼世ハ博愛を好み開智を望み憐情に富み玉ふの士よ願くハ此學を賛助し我國社會の爲め病苦者の爲め且つハ外友の厚意をも空くせざらんが爲め即ち應分の救助を惠み以て此業を遂げしめ給はんことを切望す

明治十九年

發起人新島襄、山本覺馬、中村榮助、松山高吉、伊勢時雄、

附言

前文趣旨書に陳述せし如く看病婦學校創立の爲め廣く江湖慈善家の賛成を仰がんとするに就てハ今回東京横濱幷に京坂神其外各地方に於て我が社友中然るべき人に京都看病婦學校寄附金募集委員の名義を以て寄附金募集のことを依托し右募集金預り方ハ京都第一銀行支店に依賴したり此學を賛翼し賜ふ諸彦ハ其の寄附金を最寄地方の委員迄御送附あらんことを望む又委員ハ之を受領し其都度第一銀行本店又ハ其の支店（東京の本店幷に横濱神戸大坂の支店を限り右寄附金取扱を承諾せられたり）へ振込み京都第一銀行迄郵送すべく且委員のなき地方より寄附送金せらるゝ人も最寄郵便局に托し郵便爲替となして直に本校創立事務假本部（便宜により當分の内、京都寺町通、丸太町上る新嶋襄方を假本部と定む）迄御送附あらんことを乞ふ

因に云ふ右看病婦學校設立の計畫ある旨をバ兵庫ニユースに報ずるや其日直に神戸在留の商人ロベルト、ヒユースと云へる人金二十五圓を寄附したりと云ふ聞く同氏は發起人等に一面識なき人なりと以つて其慈善の德に富む知べきなり

編者一言す。此學校の今日に切要なる此計畫ハ今日に切要なる吾人また贅言を要せず諺に之あり一に看病二に藥と看病の第一に大切なること推して知らるゝなり吾人は有志の人々ハ奮つて之を賛成し應分の義捐を爲されんことをすゝむ發起人は皆吾人の知己なれバ義捐金を送らるべき人の爲にハ吾社に於て取次の勞を辭せざるべし前号に於てすでに陳べ置たれども今亦之を言ふ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

● 叢話

○エモルソン氏唱歌聲論抄譯

音樂は尤も高尚なる娯樂の一つなり故に之を奏し之を歌ふときはよく高尚なる心情を發生せしむカーライルが之を天使の言語なりと云へるはよく當れるものなり故に彼のロックオチエーシと云へる道德上の歌曲は能く數十万の人心を感化して永生を得せしめデ、ワッハト、アム、ラインと云へる勇壯活潑の歌曲は能く普人の愛國心を刺衝し士氣を皷舞して一千八百七十年の普佛戰爭に普人をしてついに全勝を得せしめたり如此き歴史上の例逐一枚擧に遑あらずナポレオンが音樂を人心の上に非常の勢力ある者となせる證言は實に爭ふ可らざるなり然れども諺にも有之善につよきものは惡にもつよしと如此く善心を起さすべき音樂は之を用ゆるの途何如によりて亦た人を淫奔陋猥に陷るゝの案内とはなるなり延年傾城の歌を作りて漢王靡嫚の色を思ふとは之れなり今思に我國の音樂は一は淡泊に失して無味なり一は淫猥に流れて野卑なり共に文明の人心に適せず耳に適せさるのみならず其の淫猥にして野卑なるは大に風俗を紊亂し世教を毀傷するは害あるものなりさを設け頻りに其改良に從事せらるゝときく其成績何如は未だ詳知せずと雖も學校唱歌に充つるの目的を以て唱歌集三篇を公にせられたるは皆な人の知るところなり其中勇壯なる歌曲の少きは主として德性を涵養するの目的に出でたる者ならん兎に角に音樂改良即ち後日新音樂を興すの一段とはして見るべし故に生は此等の西洋風音樂の普及一日も早からんことを渴望したりしに近頃諸學校はじめ日を追ふて廣く行はるゝの傾向ありあんぞ雀躍にたへん此機に乘じて學者の便益と計り成べく高尚なる音樂を學び得て常務後の保養に充て玉はんことを希望すロードベ氏曰く音樂は人の思想を更新するものなりと今女唱歌を學ぶ人の心得となるべきものを摘譯して女學雜誌社に寄するにあたり少か思ふ所を述べて緒言と爲す　本　熱仕生

(一)　呼吸する事

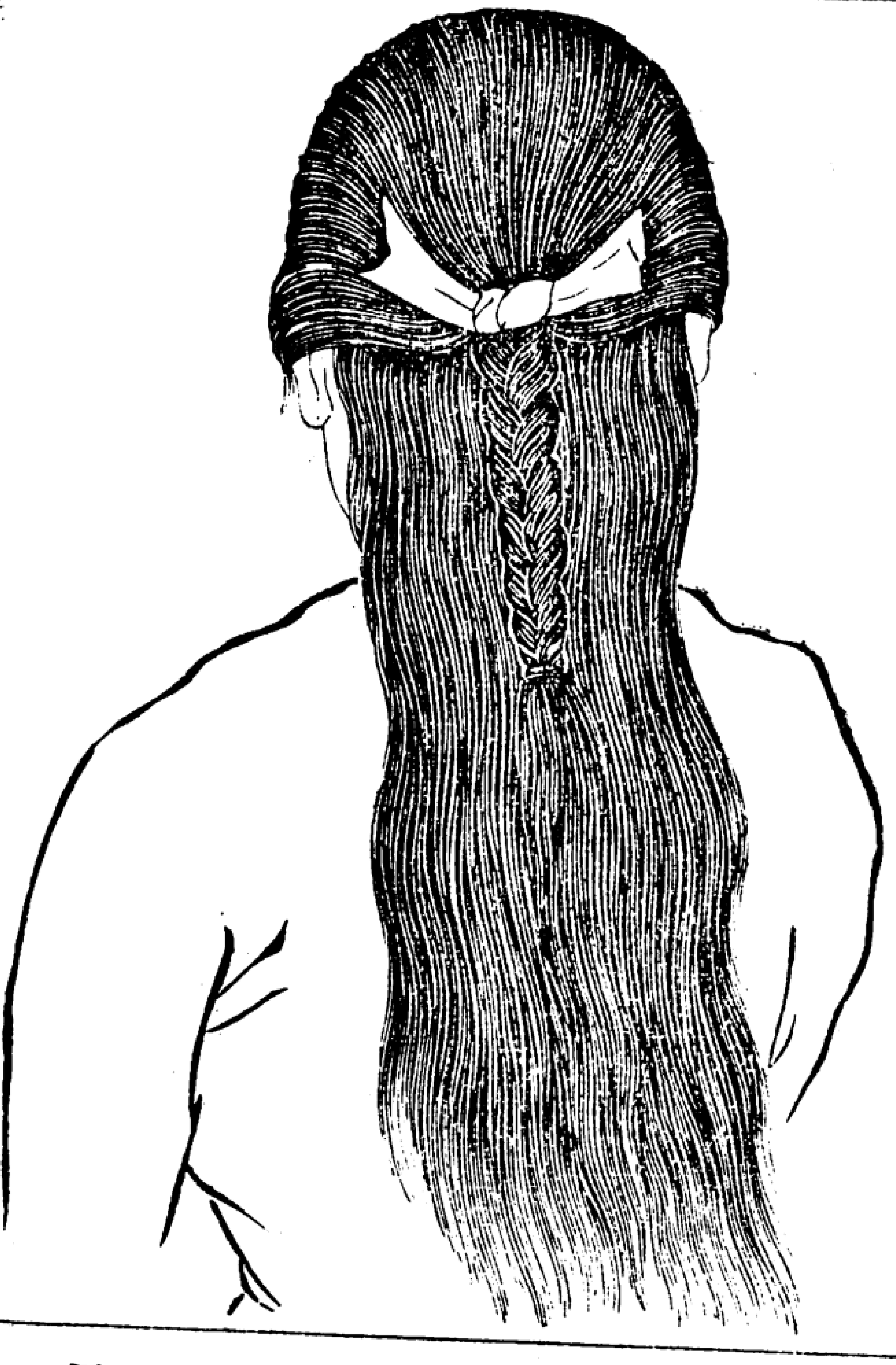
凡そ何如なる人にても氣息を自在に使用するとの叶はぬ者は未だ完全なる唱歌者と云ふべからず故に氣息の分量を增加し其呼吸するに必要なる筋肉を强健ならしめ發達せしむる爲に幼時より体操の一科を練習すると最も肝要なりとす

呼吸するに必要なる筋肉は橫隔、腹筋、腰筋、背筋及び胸筋にして此諸筋肉中特に重要なるものは胸廓と腹部とを分界するとこ

ろの大筋肉即ち横膈膜にして此膜は吸息する時は下降して胸廓を擴大にし呼息するときは内面に退縮して上昇す人の音聲は實に此筋を使用するの適否と發達の何如とに大關係を有するものにして保持音及び膨張音に於て特に然りとす

按ずるに保持音とは全音符若くは二全音符の如き氣息を長く保持すべき音を云ひ膨張音とは全音符若くは二全音符の如き長き音を中途にて聲力を增し復び初めの聲力に歸して終るべき音を云ふものならん

（未完）



○束髮圖解（三）　渡邊鼎

（ボーク結び）の甲は第二十五号に圖のみを揭げ乙は上に圖す。

○○甲圖此の結び方は先づ中剃より少し下の所にて頭髮をそろへ細き打紐或は元結にて根元を結びそろして其の髮を三つ打ちに編むこと凡そ三度許りにして元結にて結び其の結びたる所より更に髮を三本に分け三本共に皆三つ打ちに編みて凡そ三分の二許の所に到ればこれを元結にて結び止めて下げ置くべしそして右の如く結び終りたる時は根元の所へ赤色淺靑等の短かき半掛或はリボンを結び附け又花簪を差すもよろし

但し右の下りを二本に分けて編むもよろし人々の好みに任せ編むを便なりとす

○○乙圖の結び方は先づ兩耳の上より前部の頭髮を集めて其の集めたる髮を中ぞりの邊より三つ打ちに編み凡そ三分の二許の所に到ればこれを元結又はリボンにて結び止めそろして殘りし頭髮は圖の如く下げ置くべし

○右甲乙兩圖の結び方は皆十三四以下の女子の結ふものにして殊に乙圖の結びは七八歳以下の女子に適當するものあり而して甲圖の結びは頗る上品の結びにて予は其の形狀に因て之を（ボーク）狀結びと名けたり但し乙圖は適當なる名なきがゆゑに予

れ先づ之を（半結ひ）と名々たり

○日本古代女流の風俗　（七）

何の國にても人情風俗之格別なる異なきものと見ゆ能しらぶれバ似たる事多し往昔ユダヤ國の婦人グリーキの女子などか帛子を蒙へる如く我日本にても古代の婦女ハ游須比といふものを蒙りて顔をおほひたりしか中古よりハ被衣てふものを頭上に衣て顔を分明に見えざらしむることゝはなれり此被衣てふものハ近代に至るまで身分ある婦人の旅行に用ゐられたるなり又むしの垂絹とて婦人の旅行に用ゐし具あり新撰六帖（第五帖戀）むしたるゝ吾妻女子がすきかげになごり多くて行ひかれぬる。此ハ衣笠大臣の歌にして其義ハ東國女子の虫垂絹きたる其絹ハ透通ど顔が明に見えねバ餘波惜られもひながら行分れたりと云なり續世繼巻十にむし垂たる間よりや見えけん云々夫木抄九巻夏部草ふかみ虫の垂絹むすびあげて行りひづらふ夏の旅人（歌林拾葉に此歌を注して蛇のきぬ〵ぎたるを虫の垂絹といふと説たれや淺識の臆揣にして誤りなり）などある虫の垂絹（むしと云へるハ垂絹を畧きいへるにて同じものなり）も游須比被衣と同じく婦人の顔をあらハに見せざらしむる料のものなること前の歌どもによりて想ひ知るべし然れど其製之游須比被衣などとは太だ異にして笠の周圍に絹をたれ組紐を垂たるものにて住吉踊の笠に似て絹と紐を踵近くまで垂れたり（或人の説に虫の垂絹てふ稱ハ旅行のとき林下草間を行るに虫を除る料にせしより然れりと余も然かたもハるゝ也）かく旅するまでよ婦人ハ物を蒙ふて其顔を人に見するを忌ひしハ其原由一ハ男子の嫉妬に根づきたるものにて人に我が婦を戀慕せしめざるため一は途間にて猥に身を汚さるゝの患を避んが爲にして此二の弊害ハ未だ十分に開けざる國に免れざる所なり印土にても婦人を人に接しむることを嫌ひトルコにてハ紳士富人は數十の妻妾を深宅に養ひ敢て外出とゆるさず其婦女世間を知らずして一生を終るものありと云ふ且つ男女の交際ハ頗る嚴なり嚴ならざれバ淫戲をまぬかれずエジプトのごときも婦人ハ帛子をもて其面をかくせり是みな野蠻の陋俗の脱ざるなり　（未完）

○女學隨筆　をみなへし　（二）

○嫁の心得　問て云く私ご姑ハ世間に名うてな無理な人を勤まりませぬが堪忍の修行で勤まりませうか。答て曰く勤ります世間に名うてに成るほど無理な人よれとなたがえたので御座るなせといくゑやも初から世間に知れた無理な人ならとても勤まらぬゆゑろなたが嫁入せぬ筈で御座るもし又無理を合点で嫁入し

たなら初りら得心で居るゆえいかやうなとわりとも勤らぬ筈ハ御座らぬ姑ハ親なれバどのやうな無理をいふてもこなたハしんぼうして孝行するが定まつた役で御座る第一女の美めかたちをこのみ衣裳、紅、白粉又ハ讀書、縫針、行儀、作法、なにの爲じやぞ外へ出て親の敎がよきゆへと人にも笑はれぬ嫁入してハ夫の氣に入るといふが紅、白粉、髮、貞、のもとで御座る夫を忘れてあんでもないことに腹を立て夫の母に惡まるゝやうな身持して我手に我にわりれ親の顏までよごそといふハ是が本を知らぬ穢女といふもので御座る（闇路提挑灯）

○姑の心得　問て云く私方の嫁は短氣者で私と氣が合ませぬ故離緣させやうと思ひますが堪忍の修行で短氣がなをりませうの

答て曰く。夫は嫁の罪ではなくこなたの了簡がちがひてゐるゆゑ短氣ものになつたので御座るそのわけを聞かしやれ夫婦中ハ睦まじきにこなたの氣に合ハぬゆえ離別させやうとおもはしやる邪があるゆえ思ひ内にあるときハ色外にあらはるゝとやらで嫁の心にもへだてが出來てする程のとがたがひの氣に入らぬやうになり初ハ內證で云ひたことが後にハ世間へも構ハぬやうになりまするはこなたの心が小いからで御座る天地の廣から見ましてハ蟻の穴程な住家と大なとに思ひ此家でハおれがまゝじやと我儘の心より不足が出來て迷に迷をかさね色々のとが出來まするよく思ふても見さしやれ年よりて年よりのあるべき通り後生のとを心掛て一切のとハ夫婦の者に世話やかせてこなたハ安氣な隱居で御座る隱居の文字ハかくれて居るとよみまするそれを知らいで事々物々にまかり出て手前の氣に合ハぬゆえ嫁まで離別させやうと世話やくハ我手に我身の威勢を引下げ人にうとまるゝとを好むと云ふたろかなとで御座るどのやうな氣短でも道理にむかふ刃も御座らぬとかく我家での頭立たるものが大事で御座る其證據ハ水上から淸水をながしますれバ下は少々濁りても淸まねバならぬ道理で御座る夫にひきかへ此方のハ水上から土水をながそゆえ下の淸まふやうが御座らぬなんと此方のあやまちでも御座らぬかこうしたとじや程に嫁の短氣に取り合はずに此方の我慢を取てのけ堪忍の修行さしやれよ先づさしあたり嫁の氣に入らぬを堪忍して一切に足るとを知りどのやうなとても堪忍して眞實にさへなられると嫁も志を恥ちて終にハ短氣も直りますさすれバ人まで導く大功德これにましたるとは御座らぬ只々堪忍して其身の安心しまするが年よりの要々で御座る歌に老眼でくりかへし見るさとのふみかへ〲もよめにくいとハ（前同書）

○盲のつま　或人妻をむかへけるに一眼にておりしかば其夫もうきことにおもひ言ひのゝしりければ彼妻のくなん
みめよきは夫の爲のためなり女房は家のゝためなりけり
と詠じければ其夫も理に伏しかたらひ榮けるとなん（耳袋）

○今様の曲　相國淸盛の妾妓王妓女は白拍子の子なり其後加賀國より佛御前といへる白拍子登り相國の御前にて今様を舞ふ其唄に　君をはじめて見るときは千代もへぬべし姫小松おまへの池なる龜が岡に鶴こそむれゐてあそぶめれと押かへし〳〵て三べんうたひすましければ見聞の人々皆耳目を驚すと云々また曾我物語にふじのかり場工藤が館にての條十郎殿盃はいかにほし玉はぬごぜんたちあまたましませば肴まちたまふとおぼえたり今様とうたひ玉へと云ければ二人の君きせ川かめつる手こしの少將扇柏子打ならし　ほうらい山には千とせふる千秋万才かさなれり松の枝には鶴すくひ岩ほの上にはかめあそぶといふ一せいをかへし二へんまでころ唄ひければ云々十郎殿は亂拍子の上手とき〳〵どもいまだ見ぞ一番舞たまへと云々祐成子細に及ばずして持たる扇をさつと開きて君がすむ龜のふる山瀧川とばと一せいをあげてあばし舞ろり（續古事談）

○西洋婚姻談、婚禮風俗集、女子教育策、は余白なきに付讓次号

○婚姻 日本之意匠及情交　一冊（二八十九頁）定價二十錢○

○女學時論の大概

當十六日の基督敎新聞は信者なる處女に告ぐと題し婚姻は一生の快樂なれども若し其始を誤れば亦た一生の苦痛となる故によき配遇を得るまでは何如に年老るとも婚姻を急ざるは勿論一生夫にそはず獨身にて敎の爲め働く程の精神あれと論ぜり

當十一日の時事新報は婦人の旅行と題し婦人の智識見聞を增すには學校讀書などの敎育も要用なれども其一手段として旅行せしめ見聞を富まし經歷を增さしむるも亦宜ならんと説けり

同十四日も亦た婦人の財產と題し權力と財產に伴ふものなるに日本婦人は一生を夫に寄りて其恩惠を仰ぐの体なり自分の財產を所有することもならず父母の財產を受ることも出來ざるよしを歎き此より遺產分配に男女を區別せず婦人をして許多の財產を管理せしむること最も肝要の事なるべしと論ぜり。又其翌十五日は婦人の職業と題し世の文明にすゝむに從ひて婦人の職業ある趣なれば吾國も男尊女卑の風を破り男子同樣戶外に於て女子に職業を與ふる場所あらんことを望み養蠶製糸寫眞電信產婆產科等女に適する職業多きことを述たり」以上三篇何れも吾人の同意する所なるのみならずそれ理由は本誌第十六、七、九の三号に於て既に論述したる所多し

○批評

日本之意匠及情交　一冊（六十九頁）定價二十錢。

此書ハ田口卯吉君が去年の末經濟雜誌に掲げられたるを更に一冊として發兌ありたるものなり其情交の篇ハ女學に關係あるに付き例により批評す

情交の篇には先づ男女情交の愛ハ平等を待て初て宜を得ることを說き、君子を無情なりとせる誤、貴族豪商の子ハ情交の眞味を知らざることなどを述べ西洋男女の情交を密にするも而も弊害なきゆえんの理由とおゐ辯つて我國男女の情交を爲さず爲めに相擇むの粗忽なることを說き之よりして情交を密にせしめんとき甚だ危しとの掛念は女子に耶蘇敎を信せしむると女子に學文を習はしむるとの二つによりて除かれ安心なりと論じて到底今の情交なるものハ尙ほ貴族的の分子多ければ速に之を破壞し眞正の快樂を得さすべしとの事ニ収筆したり。むかし錦城が女ハ陰物なればト男ト郞に通ぜると云へるハ愚論なれども實際に然ることの多くあるハ肉交を專らとせるものにハ人を器具にせんとする貴族的の志想あるゆえなり凡ろ情交ありて初て眞正の愛あり然るに我國にハ男女の交濟なきゆえに情交もなく隨て眞愛のあらんや去なし今の男女ハ只だ肉慾を樂むものと云ふべし故に男女個々に貴族的の志想ありて人を器具にせんとす之を除くハ實に交濟にあるなり此篇ハ貴族分子を適解せる所ろ稍や異途ニ出づる如しと雖も文章の妙趣尤も愛讀すべきものあり

● 佳傳

第十　梅香女史の傳

京地の友人正に愛
飛鳥の楓葉既に紅

斯て其年の秋に入るころ梅ハ老母と伴ひて東京れ叔父許へ歸りたるに彼の何某と云へる秀才ハ初め切りに松本孝を懇望したるも孝が彼此と辞ひけるうち一朝職を辞して身を閑散の地ニ隱し專ら著作ニ從事し今ハ位もあき一介の書生となりたりとの由をきゝてハ初め婚姻を促したる孝の母も返事の遲かりしと喜び秀才も今ハとて身ら前言を取消したる程なるに孝ハ反つて此時より心を動かし遂に承諾の旨を答に遣ハして結婚も一二年れ後に延ばし其間になほ廣ふ學ばんやう取極めたる後なりけり梅が心の底に綿纏たりし一種の情も此よしをきゝたるとき何如に打驚きけん人にハ知るやうもあらざりけりあるとき孝が梅ニ云ふ樣されバ私も断然不承知れよし申し居りましたが既に書生となりたまひたきば貴方と先に約したる通の心にハ斯る一種の新

書ハ實に得がたき者と思ひました然し貴方の御考もきゝたる上と思ひ一通りの答のみを申遣りてまだ結婚ハ致しませんが貴方ハ何如御考でせうとの問に快活なる梅も容易くハ答へがたし

まことに贊成です

と一語を發して特更に四方の景色を觀る其情甚だあはれむべし

もし彼方が多少取るべき人ならバ青山さん私の爲に喜びて玉はゞ此後ハ何卒貴方ハ弟とも見做して私同樣に交濟を爲して玉へ、ネ、青山さん青山さん

それハ固よりですと答ふる情もまたあはれむべし

然し青山さんもし御氣に入らぬことがあらば何卒言ふて下さい私ハ假令ひ志どほりにして少か才學ある人を得たりとも姉妹と思ふ貴方の不贊成のことを致したら御坐いません一人を得るよりも貴方を失ふとハ好ません、ネ、青山さん青山さん

決して不贊成などハありません實に貴方の爲に祝しますとハ梅が情血をしぼり出せる言の葉なり孝は英語にて記したる端書を梅に見せ乍ら

貴方と御一處に來いとれとですから此から參りませうナニハ大方飛鳥山の近所で待て居りませう

んか○青山さんハヤ御なぶりですか

見わたせバ楓樹綺錯して彩雲あちこちにかゝり天氣澄鮮にして遊客多し其中淡泊なる半マンテルの黒服を着て聳然はるかに此方を望むは彼の何某が早くも二女を待つものなり名よしをればゞ飛鳥の如くあすかに至らんどハ孝の心、時よ後れて色ろまぬハ青山が氣もそならん

ヤ、青山さん誘ふ御出で余程御待申しました實に好天氣で幸です○孝、母樣ハ御出なかつたか○ハイ

三人の行くハ万客の注意を引き万客皆な其何種の人たるを知らぬたし孝ハ何とあう梅を慰め秀才ハたゞ梅にかたる人此兩人を夫妻とそるの反て物言ハざる一女の親ヽ秀才に多きが如し孝ハ一二反バかり後れて秀才ハ梅に物語るさまをながめながら

此度に限りかく私が斷行したるハ空恐ろし私と青山さんと地をかえて青山さんが私とかの方と談話するを望み玉はゞヽ

○アウガステン母モニカの傳

信切なる嫁、貞實なる妻、慈愛なる母として名を遺せるうえに基督教の教師中古來尤も有名なるセントアウガステンを造り出せりとて孟母とならび稱さるゝはモニカとて今を距る千五百年余りのむかし死したるに其教は今に至るも何母たらんものゝ心

得となれりモニカの兩親ハ皆な信者にて幼きときより敎の言葉をうけたれども其家に使ハるゝ老女と云へるハ至きて熱心の婢なりしかバ其敎によりてモニカの心を磨きたるを多しとす此老女の子を育つる甚だ嚴肅にてかりそめにも間ひ食などさするとあらずモニカが曾て水を飲ませてよと言へるを孃樣今のみ玉ハんとするハ水なれども若し其心を壓へて堪へ忍ぶ心根を養ひ玉ハずバ人となりてハ勝手に酒をも飲み玉ふらんと戒しめたりとぞ平常の敎大抵如此なればモニカが忍耐にしてよく温和なる氣性を得たるも其故あるなり

モニカハ平生酒庫にゆきて酒を汲み來るとを命せられけるが其都度初ハなぐさみにとて小き匕子に一二滴を

のみたるがのちにハやう〳〵酒量をまし酒杯一ツ乾ぞ程となれり然るに或る時他の下婢と少かの口論したるときろの女無厭慮のものと見えてナニ酒飲がと罵りけりモニカは心に少しく怒りたれど例の忍耐して自ら省みれバ斯る悪きものを飲めバこそ婢ヌまで悪口さるゝことよと幼な心にも勘弁して斷然禁酒したりとぞ斯て人となりあるる人の方へ嫁ぎたるに其人非常の亂暴者にてモニカを苦むること甚だ殘酷なりしが曾て一言の怨を言ひたることなし數人の妻君集るときハ皆な其夫のよしあしを彼是と言ひ合ふことあれどもモニカハ斯る席に臨めバ反つて其人々の不信切なるを責めけり夫いさゝめの事にも腹立ちて行々しく怒りのいかるときハ只た逆らハぬやうに靜かにして程經たるのち温かに之を諫めければ夫ものちにハモニカの信切ヌ感化されて温厚なる主人となりけり又姑も初ハモニカを怨みかれこれと不平のみ言ひつゞけたるがのちにハ嫁の眞心に化せられてひたすら昔をはぢ一家和睦して母子ともヌ樂き月日を送りけり此外モニカが朋友の間をよくして數多の爭をとゞめたる女男と使ひて親切なりしなど感ずべき話多くあれど吾人が其遺したる第一の教と云ふハアウガスデンを教化したるの苦辛なり

（未完）

●内國女學校集報（一一）

●寄書

編者白○下野宇都宮の二見ちか、府下芝區の中村由道、岩代信夫の岡崎いち、諸氏よりの寄書正に落手したれども余白なきに付次号へゆづる

○吉野懐古　　大和宮　今西たみ

宮さーらたゞくいく世ゕふるさとよあハれ殘るミよしのの里

おもひたつこゝろのまにむちうちて位山そらはせのほるらん

○言志學會金玉

同會ハ女子の詩文を添削し傑作を集めて明治才媛詩文をバ印行さるゝ企のよし此より時々そのうちの金玉を投寄さるゝよしにつき本号を初として時に臨き掲載すべし

春日郊行　　東京　中村いと子

吟行伴蝶弄情暄。處々香風鶯語喧。牧笛一聲人不見。柳煙淡罩夕陽林。

河村孅城評○三四巧妙可誦

春日閑適　　陸前　成田やさ子

宿雨一晴春意催。香風時送鳥聲來。繍針倦了無他事。閑洗花瓶插早梅。

孅城評○全首流麗温雅自是閨媛者流之本色

春曉即事　　東京　梅香女史

芳夢覺來天欲晨。下階庭院雨方新。海棠一朶嬌如語。惱殺闌房早起人。

孅城評○君亦欲折花揉摧擲郎前乎妬心可恐呵々

女學校名	在所地名	創立年月	教員及姓名	生徒現數	卒業生徒
海岸女學校	東京築地明石町十三番	明治十一年米國敎會創立	○校長。アトキンソン○教師。ワツソン○、スペンセル○渡邊眞楫（漢學）小池義三（理化）深井万吉（數學）遠山りよ（英學）山崎やへ（同）元眞よね（普通學）小崎百壽（同）櫻井ひで（同）擽谷やす（同）	九五内寄宿八五	日本學二人西洋學五人
新榮女學校	築地明石町四十二番		○校長。リード○教師。ロース（音樂）ミスリード（音樂、會話）佐伯陽一（漢學）木村すゞ（普通學）新井桐月（習字）○幹事。伊勢たま	八二	
女子傳道女學校	築地		○校長。ヨングメン○教師。ブライアン、中須治胤、篠原松造	一四	無
立教女學校	築地新榮町		○校長。リテツキ○教師リテツキ（英學）貫元助（英譯）フルベツキ（音樂、竹尾ふと（漢學）早川こと（諸禮裁縫）	二九	無
佛國女學校	築地明石町四十六番		○校長。ミルチツケルド○教師。ルビツト、ゲロース、ベルナード、チーメル、エンマニウエル	一九五	
東京府レース教場	新橋日吉町	十三年官立	○教師。スミス○助教師。玉吉とも、加藤とく、中林れる	五七	五
友愛女學校	小石川諏訪町	十八年十二月	○校長教師。金原よね（漢學、數學、習字）	三〇	無
女子神學校	駿台北甲賀町	十六年六月私立	○校長。佐藤秀六○監督。菅野秀子○教員。兒玉久米、岡村まさ、白極よし、伊東ゆう、泉水いよ、太田たつ、高橋いね、山下りん	三七	二一
恒德女學校	芝南佐久間町	十八年二月	○校長教師。宮原金矢（脩身、和漢文、算術、習字）	二〇	無
水交女塾	芝櫻川町	五年一月	○校長教師。星野康斎（皇學、習字、洋算、	一六	五
フエリス女學校	横濱山百七十八番	八年米國傳道會社創立	○校長代理。アメルマン○教員。ウイン、エムウイン、バラ、ブース○幹事○中山たみ○教員○（英學）島田かし、稲垣豊、（漢學）林翁、能野與、平野濱、富田ゆき。（女禮）飯島貞（書）佐々木三辰、ギユリキ政、	九〇	英學三●漢學八●女禮五●
共立女學校	横濱山二百十二番	四年米國傳道會社創立	○校長。クロスビー○教員。ピヤソン、ヴイリー、ケルシー ○教員、熊野雄七、原知郎、皿城久、鈴木信、木脇園、湯淺糸、片桐やそ、池田きの、小島なほ、原澤鼎	九六	一三

肥塚龍君序、田口卯吉君著。

日本之意匠及情交　一名社會改良論

此篇ハ日本今日に演劇、音曲、文章、工業、風俗及び情交に於て改良せざる可らざる所あることを述べたるものにして先に發兌したる日本開化の性質に續くものなり此篇も亦た繪畫の力を籍らざれバ說き分き難き所あるを以て松岡緑堂君に請ひ之を挾めり四方の君子請ふ購求あらんことを

定價二十錢、郵送料共金二十二錢

東京京橋區彌左衛門町　經濟雜誌社

教育思叢

每月二回發兌、一部定價五錢。十部前金四十八錢。全國無郵稅。中込ハ前金に限る。

●△東京牛込天神町廿九番地　教育思叢社

女子詩文添削

謝料ハ多少を論せぞ尤も郵券ノ代用するも妨なし但草稿ト同時に送附する事●返稿を草稿到達の日より二日間とす●添削を悉く本會長

河村巖城先生

に依賴する者なれバ其丁寧精密なる元より他家の及ぶ所に非ぞ●原稿中傑作と認むる者ハ一々寫置き明治才媛詩文なるを編集し出板の上無價にて呈上すべし尙女學雜誌及女學叢誌等にも時々掲載を乞ひ勉て閨媛諸君を奬勵せんとす江湖有志の才媛諸君よ冀くと陸續投稿有ん事を

◯東京新橋日吉町十二番地荒井方　東洋言志學會

六合雜誌第六十五號

一冊十錢半年五十五錢　但し郵便税共

グラッドストーン及ハックスリー兩氏の創世記論○基督の復活を論ぞ○高田早苗氏れ有神論○何如ある道德と身に行ひて世を度るべきり○ロッヱ氏の有神哲學を畧說す○心理學講義○雜錄　思想の說、英國小學讀本。ホワイト氏の天路歷程、

東京瀧山町六番地　警醒社

演說 著作 材料新誌

第五号發兌　每月一冊發兌

一冊十錢。半年分前金五十五錢。全國無遞送料。

東京本鄉弓町一丁目廿番地　女學雜誌社

定價

一冊、四錢	郵稅、一錢	（但府內無稅）
十冊、卅八錢	郵稅、十錢	（同前）
廿冊、七十錢	郵稅、廿錢	（同前）
卅冊、一圓	郵稅、卅錢	（同前）

一ヶ月分女學雜誌代價	十二錢	府外ハ十五錢
二ヶ月分同	廿四錢	府外ハ三十錢
三ヶ月分同	卅六錢	府外ハ四十五錢
半年分同	六十四錢	府外ハ八十二錢
一年分同	一圓二十錢	府外ハ一圓五十六錢

廣告

一行一回	（廿八字詰）	前金拾錢
同　三回以上		一割引
同　六回以上		二割引

但し不道德なる事物の廣告を謝絕す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評そ

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町（大賣捌）　巖々堂
東京神田區雉子町　國々社支店
同　神田區佐柄木町　東海堂
同　日本橋區新葭町　貝明堂
同　日本橋區馬喰町二丁目　自由堂
同　京橋區木挽町壹丁目　萬字堂
同　本鄉區元富士町　盛春堂
同　本鄉區春木町二丁目　解明堂
同　牛込區肴町　活神堂
大坂備後町四丁目　岡島支店
伊勢國松坂白粉町　家里初枝
東京芝西久保櫻川町（支局）　萬春堂

發行所　本局　東京本鄉區弓町壹丁目廿番地　女學雜誌社

持主兼印刷人　瀧田正義

編輯人　巖本善治

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌社

編輯人 巖本善治

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY